

元興寺の仏像

如意輪観音菩薩坐像（14 世紀）

この像は、六臂（ろっぴ）の観音菩薩である。観音様は、法輪、宝珠、閉じた蓮のつぼみの 3 つを手をしている。これらは、仏教の教えが持つ解脱の力、すべての衆生を苦しみから救うという観音様の誓い、そして終わりのない死と再生のサイクルから逃れるための個々人の可能性を表している。観音信仰は、6 世紀の摂政・聖徳太子（572-622）への信仰と結びついており、太子の死後、太子は観音として出現していたと考えられるようになった。表向きは観音像だが、聖徳太子の像であると考えられている。

不動明王像(13 世紀初頭)

この像は、五大明王の一人である不動明王の像である。不動明王は、密教の中心的存在である宇宙仏・大日如来の化身とされる。不動明王は忿怒の神で、火に包まれ、岩に座ったり立ったりして、不動の精神を表現していることが多い。無知を切り裂く剣と、欲望に駆られた者を縛る縄を持っている。

毘沙門天立像(13 世紀初頭)

この像は、四方を守護する四天王の一人、毘沙門天（別名：多聞天）の像である。毘沙門天は北方を守護している。もともとヒンドゥー教の神で、開運や商売繁盛に縁があるが、鎧をまとい、天邪鬼を踏みつけている姿がよく知られている。